

*** 研究目的**

2012 年のいわゆる質的答申以降、大学教育においてアクティブ・ラーニングの必要性が提唱され、現在では 523 大学(70%)の大学において、能動的学修(アクティブ・ラーニング)を効果的にカリキュラムに組み込むための検討を行っている(文部科学省高等教育局「平成 27 年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)」)。

このように大学教育においてアクティブ・ラーニングの導入および実践は着実に増加しているが、一方で、学部教育・全学共通教育に応じたアクティブ・ラーニングのあり方に関する議論、特にアクティブ・ラーニングの有効性は少人数教育の中で語られることが多く、アクティブ・ラーニングが大学教育の中でどのような学びの形態で運営されるべきか、また学生の意識に対する調査研究は十分とはいえない。

そこで、本研究チームでは、大学教育におけるアクティブ・ラーニングの課題と有効なアクティブ・ラーニングのあり方を本学の教育の現状を分析、検証し、学部教育・共通教育それぞれのアクティブ・ラーニングのあり方を提案示唆することを目的とする。共同研究のメンバーそれぞれが実施している授業形態や規模をモデルとして、提供する授業形態の違いから得られる分析成果を比較研究することで、本学でのアクティブ・ラーニングの最適化を考察する。

*** 研究チームメンバーと研究課題**

小西幸男 共通教育センター・准教授

研究テーマ：共通教育におけるアクティブ・ラーニングの実践と効果検証

山本真知子 法学部・教授

研究テーマ：中規模講義におけるアクティブ・ラーニングの実践とパッシブラーナーへの対応

中村典子 国際言語文化センター・教授

研究テーマ：外国語教育・国際理解教育におけるアクティブ・ラーニングの活用

千葉美保子 共通教育センター・講師

研究テーマ：大規模キャリア教育におけるアクティブ・ラーニングの実践と効果検証